略抄

一言芳譚

單

此文あさげ近くしてむね遠し一生あじばふてなほ餘あり希くは常にあれをふさあろにし時々ひちき見て心行のたすけとなしたまへ

東京

教報社發刊

東京中橋和泉町北澤活版所印刷

188.64
I737
た

国立国会図書館

国立国会
29. 7. 22
図書館

337618

略抄

一言芳譚

○明遍僧都　少納言通憲の子　三論宗の達人　云穢土の事いいづくも心まかなふ道理あるべからず小難をば心に忍ぶべきなりたとへば惡風にあへる舟の中にて艫へゆき舳へゆかんとせんがごとし

○明禪法印云　參議成賴卿の子　叡山の學匠　居所の心まかなはぬはよき事なり心まかなひたらんまはわれらごとくの不覺人い一定執着しつとおぼへ候あり

○有云心戒上人　阿波守宗親高野山つねまゴ入り諸國巡行すゴ蹲居したまふ或人ろのゆへを問けれバ三界六道には心やすくしりさしすゑて

るべき所なきゆへ也

○賀古教信は西には垣もせず極樂と中をあけあはせて本尊をも安せず聖教をも持せず僧よもあらず俗にもあらぬ形よてつねに西にむかひ念佛して其餘は忘たるがごとし

○有云解脫上人藤原貞憲の子貞慶法相の達人なり食事の氣味覺るをいたみてとゝのへたる物よ水をいれたまひき

○法然上人本朝淨土門の元祖圓光大師或人よをしへて云人はうまき物を大口よくひてむせてしぬることもあるなりしかれば南無阿彌陀佛とかみてなむあみだ佛とてぐとのみ入べし

○敬佛房法然上人の門人云たとひわが心をゞ損ずるまではなくとも人の欲をましつべからむ物をゞかまへて〳〵之を持べからず

○或上人同朋を誡て云物なほしがりたまひぞ儲ゝやすくて捨が大事なるよと

○明遍僧都云紙きぬよえもんつくろうほどの者は不覺人よてありける

○敬佛房云資緣煩なき人ものぞかよ後世のつとめするゝきはめて有がたきなりこれをもておもふよ資緣の有無によらずたゞ心ざしの有無による也然ゞ某は資緣の希望ゝながく絶たるなりたゞ後世ばかりぞ大切なる又自

然るあれバあらるゝ也後世をたもふ人出離生死のほかいなる事もいかにもあらはあれとうちすつる意樂よつねに住するなり佛の御心ハ眞實にかなひて誠の供養なる事たゞいさゝかも出離の心をたこすまある也有待の身緣をからずといふことなけれゞ紙衣世事をりにしたがひていとなめども大事がはまもてなして後世のつとめにならべたる樣に思ふ事かへす〳〵無下のことなり

○敬佛房云後世者といふものは木をこり水をくめども後世をおもふものゝ木こり水くむにて有べきなり

○禪勝房天台の學者法然上人の門人云故上人法然の敎ありたとひ餘の事をいとなむとも念佛しゝこれをするるれもひあるべき也餘事をしゝ念佛せんとはおもふべからず

○敬佛上人或同朋ハ後世者の究竟の事をしへんとて云身ハいやしくて心はたかく有なん

○明禪法印云しやせましせでやあらましとおぼゆるはどの事ハ大抵せぬがよきなり

○有云慈悲をこそおこさゞらめ人をなにくみぞ

○有云後世をねがハゞ世路をいとなむがごとく今日すでハ暮ぬ渡世はげまざるハやすし今年もやみ〳〵と闌ぬ一期いそがざるに過ぬよひにはふしてなげくべしいたづらにくれぬることを曉はさめて思ふべしひねもすに

行せむ事を懈怠の時は生死無常を思へ悪念思惟の時
ゐは聲をあげて念佛すべし鬼神魔縁等におきては慈悲
をおこして利益をあたへ降伏の思ひをなすことなかれ
貧い菩提のたね日々は佛道にすゝむ富は輪廻のきづな
夜々にあく業をます

○敬佛房云裘荷籠負なぞ執しあひたるは彼を用る本意を
しらざる也あひかまへて今生は一夜のやどり夢幻の世
とてもかくてもありなんと眞實に思ふへきなり後世を
おもふ故實には生涯をかろくしいきてあらんゐと今日
ばかりたゞいまばかりと眞實は思ふべき也かく思へば
忍がたきこともやすくしのゞれて後世のつとめもいさ

ましき也かりそめにも一期を久からむずる樣にたに存
ドつれゞ今生の事おもくれぼえて一切の無道心のこと
出來也某は三十餘年此理をもて相助て今日まで僻事を
しいださゞる也今年ばかりかとまでは思しかども明年
までとは存ぜざりき今ゝ老後也よろづはたゞ今日ばか
りと覺る也出離の詮要無常を心はかくるにある也

○敬佛房云世間出世至極たゞ死の一事也しなばしねとだ
に存すれば一切は大事はなきなりゐの身を愛し命をを
しむより一切のさわりはおこることなりあやまりてし
なむはよろこびなるとだは存ずれゞ何事もやすくおぼ
ゆるなりしからば我も人も眞實に後世をたすからむと

れもはんにいかへす〳〵も道理をつよくたてて心よま
けず生死界をものがましくれもふべからざるなり

○乘願房台密の學匠法然上人の門人云さすがに年のよるしるしよは淨土も
ちかく決定往生しつべき事はおもひしられて候也所詮
眞實よ往生を心ざし候いんには念佛い行住坐臥を論せ
ぬとなれバたゞ一心よねてもさめてもたちゐおきふし
にもなむあみだ佛〳〵と申候へば決定往生のつとゝれば
え候也學問も大切なる樣よ候へどもさのみ往生の要な
ることも候はず又學して一の不審を排といへどもする
にしたがひてあらぬ不審のみいできたるあひだ一期い
不審さはくりよて心しづかよ念佛する事もなし然て念

337618

佛のたよりよはならで中々大なるさはりよて候也

○敬佛房云たとひ八万の法門を通達せりとも凡夫の位よ
は猶あやまちあるべし佛助たまへと思ふ事のみぞ大切
なる

○聖光上人淨土宗第二代正宗國師云日來隨分よ後世をおもふ樣なるも
のゝ行業なぞ退轉することあらバ死期のちかづきたる
とれもふべきなり

○有云我臨終の時はすいたゞいまとみゆるいなどいふべ
からず無始よりをしみならひたる命なれば心ぼそくお
ぼゆることもあらむかたゞ念佛をすゝむべき也

○松蔭顯性房長門人云渡より出たる船より行あひたるより先つかみつきてのるほかより別の手なし今生の愛河をわたらんと思ふより彌陀の本願の出船を聞得つる上より仰信じて稱名するほかより別の樣なき也

○禪勝房云所詮淨土門の大意ハ往生極樂ハやすき事と心得までが大事なる也やすしと心えつれば かならずやすかるべき也然を近代の學生の異義まち〳〵なるハ聖教甚深なれバ邪正わきまへがたし但上人法然の仰はさしものの事ハなかりき

○法然上人云念佛の義をふかく云事ハ還て淺事也義ハふかからずとも欣求だにも深くば一定往生ハしてん

○法然上人云稱名念佛ハ樣なきを樣とす身の振舞心の善惡をも沙汰せず念頃より申せバ往生するなり

○法然上人云煩惱のうすくかつきをもかへりみず罪障のかろきおもきをも沙汰せずたゞ口より南無阿彌陀佛ととなへて聲よつきて決定往生の思をなすべし

○法然上人云十聲一聲等の釋は念佛を信ずる樣念々不捨者等ハ念佛を行ずる樣なり

○聖光上人云我ハ助たまへ阿みだ佛と心よもれもひ口よもいふなり

○然阿上人淨土宗第三代記主禪師云いつはらざる心をもて佛の本願を信じてまさに往生せむと思ふこれを三心といふなり

○顯性房云小兒の母をたのむゝまたく其故をしらずたゞたのもしき心ある也名號を信敬せんことかくのごとし

○明禪法印云あか子念佛がよきなりさかしだちたる事ども きこしめして仰られて云身の程しらずの物覺ず

○高野の明遍僧都善光寺參詣のかへりあしに法然上人は對面し僧都問云いかがして今度生死をはなるべく候上人の云念佛申てこそは問云誠はしかり但妄念おこるを いかゞ仕るべき上人答云妄念れども本願力はて往生するなり僧都さうけ給ゝりぬとて出たまひぬ上人つぶやきて云妄念おこさずして往生せんとれもゝん人はむまれつきの目鼻を取りすてゝ念佛申さんと思ふが

ごとし

○鎭西の本覺房明遍に問たてまつりて云心もし散漫せば其時の稱名善にあらず心をしづかはしてのち唱べき也と申候ゝいかゞ用意すべく候はん答云其ゝ上機にてゞ候ゝん空阿彌陀佛明遍がごときの下機ゝ心をしづむる事はいかにもかなひがたけれゞ念珠の緒をつよくして亂不亂を論せずくりゐてこそ候へ心のしづまらん時と思ふゝ堅固念佛申さぬものにてこそ候はんずれ

○聖光上人云凡夫ゝ歷緣對境の名利をば發すべきなり但往生の解行につきてゝ一向眞實なるべし

○或人敬日房叡山の學匠に問云稱名ゝ往生の要としりて候へども

心は野山のことのみ思ハれて口バかりに唱れバいゝのが候べき答云御房ハこれへおハしまさんといふ心よりて立出あゆませたまふ間ハあゆむあしでとにこれへ〳〵とバかりれもひたまふ事よもあらじあらぬことをも思ひてこそあゆみたまひつらめされどもあゆむことやまずしてこれまでれわしたり此定ハ極樂ハ往生せんといふ願をれこしてのち彌陀の名號をとなへたまふ間ハいあらぬことをれぼしめすとも稱名やまずして命終るまで行たまはゞ往生決定なるべし

○行仙房云或人慈心問云我身の無道心をかへりみて往生をうらおもふと涯分をかへりみず決定往生と思ふといづれかよく候べき答云我むかし小藏入道に謁したりき往生ハ最初の一念に決定せり報命盡ざれば依身の未消ざるばかりなりと申されしが殊勝の往生をとげられき熊谷入道も此定ハ申されけるとなん承はる禪勝房又生あるものゝ必死するがごとく往生におきてハ決定也と申されけるが殊勝の往生をとげられたり此兩三人ハ同く上人法然面授の人々にて彼御教訓也しかれバ決定往生の思をなすべき也

○明禪法印云たゝよく念佛すべし石に水をかくるやうなれども申せは益ある也

○乘願上人云善導を仰がん人ハ名號よりほかのことハ行

ずべきにあらずされバとてよりこん所の善根の念佛の障碍とならざらんほどの事をバ値遇結縁すべきなりきらへバとていまゝしき事の様ゝはれもふべからず行ずべければとて念佛のいとまを入べからず

略抄

一言芳譚 終

此書古來何の世何人の撰集せしを詳にせず吉田の兼好此書を引用せしを見れば當時既に世に行はれ凡そ六百年以上のものなるを知るへし載する所は皆實德の光をかゝせる道德者の言語のみなれば容易に看過すべからすされば關通上人も時々此書を披きて志をはげますべき旨を示されたり今原著の中尤も肝要の芳語を抄書して良友に頒つ

明治廿五年五月六日出版

著作發行人　教報社　東京市牛込區喜久井町

印刷人　北澤久次郎　東京市京橋區和泉町

188.64
I737
k

国立国会図書館

017369-000-9

188.64-I737k

一言芳譚（抄略）

教報社

M25

ABF-0063